

# Go on and on.

時を重ねる、今も、これからも

# Moshi- Mosu

もっと知れば、  
もっと好きになる！  
長岡京市の歴史・文化財

# V

## Vol.25 2024 Spring

時を重ねる——

歴史の糸が絡み合う過去の記憶が現在を彩り、未来の可能性を織りなす。形あるものは、歴史の中で変化し、ときには消え、ときには新たなものへと生まれ変わる。今に残るものは時を重ねる歴史の中に自らの物語を刻む。時の流れは、繰り返しの中に新たな意味を紡ぎ出す。

私たちは、歴史の重みを背負いながら、新たな歩みを踏み出し、未来への足跡を残す。

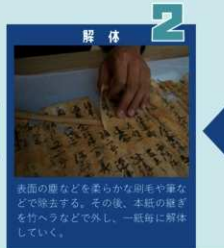
今、この一瞬一瞬の時を重ねて。

# 文化財の修理とは

文化財の修理は、ぜい弱になった文化財を解体して様々な手を入れるため、文化財の価値を損ないかねない危険を伴います。そのため修理は必要最小限にとどめ、次回を見据えた調査や記録が重要となります。専門の技術者たちは再度修理が可能な材料と技術で修理するという原則を大切に守っています。



劣化による欠失  
資料の現況について、破損状況や以前の修理内容などを調査し、これらの情報をもとに修理の基本設計を行う。(長さ: 536.8 cm)



**(表) 縁起交名**  
けちえんきょうみょう  
像の造立にあたってご縁を結んだ人々の名前を書き記したものである。

**A** 市内や周辺の村の名前が見え、村単位で製作したことがわかる。

**C** 「旅人」? 行きつりやりの人も寄附に記していた?

**E** 「縁起交名」の最終紙が「御成敗式目」の冒頭紙。康永3年以前に「奉書失」という人物によって書写された。

**(裏) 御成敗式目**  
ごせいばいしきもく  
鎌倉時代、武家社会での慣習や道徳を定めた、幕府の法令。

**(表) 縁起交名**  
人々の祈りまに伝へる  
欠損している部分も合わせると2000名近くの寄附があったと推測される。

**A** 市内や周辺の村の名前が見え、村単位で製作したことがわかる。

**C** 「旅人」? 行きつりやりの人も寄附に記していた?

**E** 「縁起交名」の最終紙が「御成敗式目」の冒頭紙。康永3年以前に「奉書失」という人物によって書写された。

**(裏) 御成敗式目**  
ごせいばいしきもく  
鎌倉時代、武家社会での慣習や道徳を定めた、幕府の法令。

## 京都市指定文化財 寂照院 金剛力士像建立結縁交名

木造金剛力士立像(京都市指定登録文化財・長岡京市指定文化財)の像内には、康永3年(1344年)の年記のある「縁起交名」や勧進状断簡などが納入されています。「結縁交名」もその一つで、文政9年(1826)の金剛力士像修理時に取り出され、地元で大切に保管されてきました。他の納入品は、昭和40年(1965)の解体修理時に取り出され、現在、本市教育委員会に寄託されています。今回復元された「結縁交名」は、「御成敗式目」写本の裏に、康永3年、「金剛力士像」造立のための勧進村単位に記したもので、その範囲は西岡地域(桂川右岸地域)から淀付近まで及んでいます。結縁交名の前半(御成敗式目の後半)は欠失しており、さらに多くの人々が関わったと推定されます。また、ここに見える地名・人名表記のバターンと市寄附の納入文書からは、14世紀半頃の西岡地域の村落のあり方や、当時の京都近郊における仏像造立の勧進の様子を知ることができます。

## 寂照院と金剛力士像

寂照院は、平安時代初めに僧道隆(?~851)が乙訓郡木上山に華嚴宗の道場として建立した「海印寺」の子院の一つとされています。山門の両脇に安置される木造金剛力士像は、康永3年(1344)に西岡地域の人々からの寄付で造立されたことが、結縁交名からわかります。目鼻立ちや筋肉の抑揚、衣のしわや動きをやや誇張気味に表現されています。



COON and on.



# Topic!

令和5年度は、「文化財保存活用地域計画」キックオフの年でした。屋根の葺き替えが完了した長岡天満宮の連絡所での講演会にはじまり、歴史ドリルの作成に向けたワークショップや乙訓寺の重要文化財特別公開の協力。新たな文化財の指定・登録など、多くの事業を実施しました。

## 国登録有形文化財の新登録！！

### 今尾家住宅 いまおけじゅうたく

長岡天満宮境内地に隣接する今尾家住宅は、明治・大正時代に活躍した京都画壇の重鎮今尾景年（1845～1924）が、晩年、迎賓施設として営んだ別邸に始まります。景年の別邸造営は、天満宮周辺の景観を整備する契機ともなりました。令和5年8月、近代数寄屋建築の造形の規範として、茶室「薫風亭」・土蔵の2棟が国登録有形文化財に登録されました。

薫風亭は八条ヶ池畔の景勝を近景として、大正時代後期に建てられた二階建ての建物で、入母屋屋根や杉皮付き板張りの外壁などが建設時と変わらない印象を残しています。主室の内部は書院座敷ですが、大きな円窓を開けるなど草庵茶室の要素がみられる自由な意匠です。竹や細木、清水焼の襖引き手を用いた多種多彩で自由な数寄の趣向は建物全体にわたり、素材から細部の意匠にまでおよんでいます。

◆一般公開は行っていません。



昭和初期頃の茶室「薫風亭」



茶室の内観

New designation  
新たな仲間

## NEWS

### 長岡京市文化財ニュース

令和5年度、本市文化財に関する動向をご紹介します。

#### 国指定重要文化財

- 乙訓寺 十一面観音立像 像内納入品 修理  
重要文化財に指定された十一面観音立像の像内から見つかった古文書類は、3ヶ年の修理を開始しました。

#### 国登録有形文化財

- 今尾家住宅 新登録  
今尾家住宅は、京都画壇の今尾景年の別邸の内、茶室と土蔵の2件が新たに登録されました。

#### 府指定有形文化財

- 寂照院 金剛力士像造立結縁交名 修理  
経年劣化が著しかった結縁交名の修理が完了しました。

#### 府暫定登録文化財

- 楊谷寺 阿弥陀堂 修理  
クラウドファンディングなどのご寄付を得て、令和6年6月の完了に向けて屋根の修理事業が開始されました。

#### 未指定の文化財

- 春日神社 狛犬 修理  
勝竜寺地区にある春日神社の狛犬は、幕末に作られた砂岩製のもので、府補助金を活用して修理されました。

## 文化財の Trivia トリビア

Q. 金剛力士って、お相撲さんの？

A. 違います。  
元々、力士は「力が強い人」を指す言葉で、心の強さや意思の強さを表現していると考えられています。また、金剛は、仏教でいう鋼のような固さや不動の心を指します。ちなみに、相撲の起源は、『古事記』や『日本書紀』に登場する神話や伝説が挙げられます。鎌倉時代、武士たちの訓練として相撲が盛んになることから、仏法を守る金剛力士が頻りに造られるようになっていきました。

文化庁提供



いげのやま大王

古風に扱われ  
道徳にも力を入れた  
ものがあふれるよ！

#### 埋蔵文化財

- 長岡京跡出土の木製品・金属製品 保存処理  
田下駄他木製品（左京第613次）、鉄鍬（左京第634次）  
鋤先（右京第1198次）、鍬・鋳他鉄製品（セツ塚古墳群）
- 長岡京跡他（井ノ内荷荷塚古墳）発掘調査

